

産業考古学会 2010 年度全国大会（江別市） の報告

実行委員長 山田大隆

1. 概要

10月9日土曜日、北海道江別市酪農学園大学を会場に、産業考古学会 2010 年度全国大会を開催した。開催地江別市（札幌市のベッドタウン）は文京台に本学のほか、大学で北翔大学、札幌学院大学、北海道情報大学、北海道アグリカレッジ（学生人口合計 1.2 万人）、高校 3 校、北海道立図書館、北海道立教育研究所、北海道立埋蔵文化財センターの教育文化施設が集中し、北海道博物館中心の札幌の北海道開拓記念館、北海道開拓村が隣接する北海道の代表的な文京地区である。現在日本の 40% を生産する 3 煉瓦工場、王子特殊紙工場（旧日本陸軍木製戦闘機工場）の産業と酪農大の演習地の野幌原始林があり、開基 120 年の屯田兵村遺構、戦後北海道知事、現自民党閣僚代議士を輩出した町村家農場設置による北海道の酪農業と教育（黒沢氏の酪農義塾）発祥の地である。日本第 3 位の河川である石狩川の最大川港で明治末から昭和 10 年代まで河口から蒸気外輪船も接岸し賑わった川宿町並みも残る。最近では埋蔵文化財センターによる江別式土器や中空土偶発掘の日

本的な考古学発展地、今年秋ノーベル化学賞受賞者鈴木章北大名誉教授が永い住民として居住する話題の町でもある。

酪農学園大学の全国大会会場の使用は、昨年6月19日の日本産業技術史学会第25回年総会開催について2度目である。酪農学園大学はこの地に黒沢西蔵が町村金弥（札幌農学校2期生、長男が町村農場主敬貴氏）、宇都宮仙太郎、佐藤貢（雪印食品創始者）氏らとともに北海道の酪農技術と教育創始の拠点を決めて以来の建学である。田中正造の高弟の黒沢氏が酪農教育の北海道酪農義塾を昭和8年に創始、17年機農学校、25年に酪農短大、35年に大学（酪農学部、獣医学部39年、本年9月17日創立60、50周年祭）となった。平成9年に全国でも例のない3学部（酪農、獣医、環境システム）制農業系大学となり、戦後の農業革命、環境問題深刻化中で急成長し、キリスト主義建学精神三愛主義で一時期は4500人の全国からの学生を有しアジア、カナダ進出する日本で有数の農業大学となって現在にあり、10年前に北海道で最初の導入となったインテリジェント牛舎（自動搾乳と糞尿バイオマス発電）は全道13地区へ商用施設として浸透している。

今回の大会は通例の全国大会が研究会1日、見学会1日の2日実施に対して、見学会を広い北海道に散在する遺産見学のため敢えて見学会をオプション2日追加し3日とった。例年の大会に比べ、寒冷降雨の多い北海道の特殊事情で1ヶ月実施を早くし、見学会は連日天候に恵まれ見学会が一方の見所の今大会としてよい印象で終えたことは主催者として幸いだった。この大会実施のため、江別市教育委員会の石垣秀人氏（特別講演者、江別市郷土資料館長）、北海道大学総合博物館の第二農場展示解説員高井宗宏氏（記念講演者、今年度産業考古学会保存功労者）、スガノ農機「土の館」館長小野寺正巳氏、NPO三笠市再生塾事務局長伊佐治知子氏、倶知安町教育委員会矢吹俊夫氏（元風土館長）の方々、また北海道産業考古学会のベテランにバス内の見学地の専門家の説明をお願いし最大限のご協力をいただき、前北海道産業考古学会長の大島聡範氏、前全国大会実行委員長小西伸彦氏には物心両面の多大のご支援を戴き深甚の感謝を申し上げる次第です。

4日間の広域バス運行で廉価で丁寧なバスサービスをされたクローバー観光、実施が例年より1月早い窮屈な日程のなか期限内完成で最大限の印刷業務を尽力された札幌福祉印刷のほか、北海道新聞社江別支局、北海道遺産協議会、北海道開拓記念館、北海道文化財保護協会、北海道開拓記念館文化振興会、酪農学園大学広報課には宣伝、実行委員会委員等で多大のご支援をいただいた。今回の大会は6月の研究発表募集では1月遅れ、また実施が1月早い10月実施のため（九州地区の参加予定者には交通上大変なご迷惑をお掛けしたが）、会誌発送を早め、今大会成功に向け万全を期した。これらの本部理事、諸機関、多数の専門家のご協力で今全国大会の成功となった。今回の全国大会の公式参加者数は、1日目（9日）会議60名、見学会1日目（10日）27名、2日目（11日）15名、3日目（12日）13名であった。会議9日の総合司会は全日本学の地域環境学科干場敏博教授にお願いし、成功のためご尽力いただいた。

2. プログラム

当日は本館4階第1会議室で8時半受け付け、60人が台湾を含む道内外から参加し、9時開会となった。最初に玉川寛治会長の挨拶があり、北海道大会が全国大会第1回目今回4回目との歴史と伝統を強調された。実行委員会を代表して山田が歓迎の挨拶を行なった。予定の開催地江別市の三好市長のご挨拶は所用で、午後の江別市教育委員会の石垣秀人江別市郷土資料館館長のご挨拶で代行となった。

午前中は、大島聡範、林恒子・山田大隆、長渡隆一・大石道義・池森寛、松田寛・竹内康秀・中村恭子（欠席のため共同研究者山田大隆が代行発表した）、亀田光三、大島一朗、大森けんいち、中川洋、黄俊銘・黄玉雨（台湾中原大）の各氏から講演論文集により9件のご発表をいただいた。座長を担当されたのは、各3件ずつ中川洋理事、大島聡範氏、吉田喜一理事長であった。発表は1件15分、質疑5分で一件あたり20分であった。パワーポイントが主流だが、OHP3件、ビデオもあり多彩な発表方法があった。

午後のプログラムは中央館1階学生ホールで13時の記念講演会から始まった。講師は元北海道大学農学部農業機械学教授・北海道大学総合

博物館資料部研究員（2010年度産業考古学会功労者賞受賞者）の高井宗宏氏で、演題は「北海道開拓と営農機械化体系の変遷」と題して、論文集とスライドで、札幌農学校からの北海道の海外技術による大農法化の歴史が豊富な資料提示で90分間語られた。江別市民（午後は公開講演会）も聴講し、北海道の機械化農業史の技術的背景を北海道産業考古学農業機械史専門家より、本格的で氏の集大成的な貴重な歴史研究史を豊富な図版で拝聴して有益だった。ついで、恒例の当地特別講演会となり、講師は江別市教育委員会の石垣秀人氏（江別市郷土資料館館長、セラミックアートセンター所長）で演題は「江別市の産業遺産」であり、氏は永年の江別市行政と文化事業の中心者として貴重な講演された。最初に江別市長代理の歓迎のご挨拶があり、関連して江別市の歴史地理市政、重要文化財の概観があった。その後産業文化財の説明が、レンガ史、川港史、伝統的建築史、王子の木製戦闘機工場、発電所史等で70分間なされた。午後の最後は、16:00からシンポジウムとなり、テーマは「日本の産業遺産保存運動の現状と課題—今後の発展方向を探る—」として、司会の山田からニジニタギル憲章配布と趣旨説明とパネリスト紹介、パネリストは林恒子氏「戦争遺蹟保存運動を通して見た産業遺産保存運動の法的課題」、森陵一「江別市における産業遺産保存と市民運動の意義」、大島一朗氏「産業遺産保存・活用のためのマクロ的アプローチの有効性」、青木隆夫氏「夕張炭鉱史から見た産業遺産保存運動の課題」で各氏から提言がなされ（1人20分）、その後質疑、フロア含めて自由討論、コメンテーターの大島聡範氏（前北海道産業考古学会長）から討論のまとめ、最後に会長の玉川氏からまとめの発言がなされて、17:30分に終了、その後閉会式となり、吉田理事長から学会アピール、山田実行委員長から謝辞と実行委員6人の紹介がなされ、予定より30分遅れて17:50に、無事1日目の全日程を終了した。

3. 懇親会

バスで会場の酪農学園大学から新札幌駅のアーキシティホテル「ハマナス」へ移動、30人が参加して50分遅れの18:50から懇親会が盛大に行なわれた。司会は沢田氏、玉川会長、山田実行

委員長挨拶のあと、高井先生（元北大）の乾杯で開宴、その後懇談がなされた。昨年ような歓迎の芸能はなかったが、有益な参加者同士の交流会が行なわれて有意義であり、懇親会の終わりの乾杯は大淀昇一先生（前東洋大学）によりなされた。

4. 見学会

今回大会の力点は、広い北海道に散在する、北海道開拓使以来の開発技術産業遺産を多数見てもらう見学会の充実にあった。そのため、連休と最後の好天時期を利用して見学会日程が先に決められ、次いで研究会講演会日程が決定した北海道の特殊事情経緯がある。実際は終了後10月下旬はかなりの降雪を見た悪天候で、選択は正しかった。前3回は炭鉱史が中心で、今回は機械化農業史中心とし、今回の見学会1日目（10日、8:30 JR新札幌駅集合、貸切バス、27名）が9時より江別産業史（石垣館長案内、セラミックアートセンターで江別レンガ史、肥田陶管工場内外、町村農場博物館、江別郷土資料館、江別河川防災センターの5ヶ所を見学し、レンガ、酪農史、木製戦闘機史、石狩河川交通史を視察）、午後三笠の幌内と奔別炭鉱遺産、上富良野のスガノ農機「土の館」（80台の歴史的トラクターと蒸気トラクター見学）、2日目（11日オプション1、8:30 JR札幌駅北口集合、15名）が北大札幌農学校機械化農業史、真狩村羊蹄澱粉水車史、倶知安風土館で零戦実験機体見学、3日目（12日オプション2、8:00 JR札幌駅北口集合、13名）が室蘭市の日本製鋼所と新日鉄製鉄所、白鳥大橋展示館（見学出来ず）、室蘭国鉄駅（登録有形文化財）と決定し実施した。3日すべて参加された会員には連日バスで遠く走り回る多忙な日程だったが、北海道産業遺産では一部である。ぜひ今後の機会、広大な北海全域をレンタカーで回り、今回割愛した多数の北海道産業遺産を見て戴きたく思っている次第です。各コースの実施内容詳細は参加者からの感想報告に代えたい。